

成果指標				
成果指標	10箇年整備計画に基づく消防詰所整備の耐震化整備充足率で、その達成度を測定する。(実績)当該年度までの累積更新数/(目標)耐震計画数10箇所 (単位:%)			
指標設定の考え方	震災対策を考慮した災害時の活動拠点の整備。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標34年度
目標	30	50	70	100
実績	20	40	70	100

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	A
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	4	A
		コスト効率	5	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	消防詰所は、地域防災の要であり防災活動の拠点であること、また、有事の際には地元消防団の迅速な活動が不可欠であり、公共施設整備計画とは切り離して整備して行く必要がある。有事の際には、防災活動拠点となることから、無耐震から優先的に建替えて行く必要がある。厳しい財政事情を考慮すると単年度に完了するものではないが、できる限り整備して行く必要があることを認識している。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	第1次総合計画で老朽化した消防施設や消防車両・装備などの整備更新を計画的に進めるとしており、消防施設整備等計画に基づき整備を進めている。厳しい財政状況であるが地域防災力充実強化に向け施設整備の充実を図るとともに、必要に応じて整備計画の見直しを検討する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業 (二次評価者コメント) 今後も一般財源の不足が見込まれることから、現在の整備計画を精査し、財政計画と合致した計画を立案する必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	<ul style="list-style-type: none">・防災の施設であるから、公共施設整備計画と切り離すべきという主張はよく分かるが、市のコンセンサス(市の総意)はあるのかどうか。・耐震化ができていないところは早急に進めるべき。・消防団員の確保や消防団詰所の存続など、地域の希望も理解できるが、できるだけ効率的に行える苦勞をしていただきたい。・高齢化は進むだろうが、是非進めていただきたい。
-------------------	---

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	